



# Newsletter

Kyoto University International Undergraduate Program

No. 12  
2023.6

## この号の内容

1. 初めての卒業セレモニーを開催しました
2. 2022年度生の予備教育課程修了式を開催しました
3. 2022年度生が京都大学入学式に参加しました
4. 履修相談会を実施しました
5. 学部チューター向けの説明会を実施しました
6. 2023年度生の選抜審査を終了しました

Kyoto iUP卒業生の声

## 1. 初めての卒業セレモニーを開催しました

2023年3月30日に、Kyoto iUPで初めての卒業生を祝うセレモニーを開催しました。卒業生は2018年10月に最初のKyoto iUP予備教育履修生として入学し、この度4年間の学部課程を無事に終え、晴れて学士の学位を取得しました。

平島 教育担当理事(当時)による挨拶、宮川 国際高等教育院長による祝辞の後、卒業生が日本語でスピーチを行いました。4年半の思い出を振り返りながら、卒業の喜びとこれまでの感謝を流暢な日本語で述べる姿に、教職員も思わず胸が熱くなりました。後輩を代表して2名のKyoto iUP生からのこもった送辞があり、長谷部 プログラムマネージャーによる祝福の言葉でセレモニーが締め括られました。

卒業生には京都大学iUP同窓会の一員として、Kyoto iUP生や大学との繋がりを大切にしながら、それぞれの進路で自国と日本との懸け橋となって活躍してくれることを期待しています。

Kyoto iUP卒業生の声(裏表紙)も是非ご覧ください!



2022年度卒業生との記念撮影

## 2. 2022年度生の予備教育課程修了式を開催しました

2023年3月30日に予備教育課程修了式を開催し、25名の予備教育履修生が出席しました。

平島 教育担当理事(当時)の祝辞、宮川 国際高等教育院長の挨拶と修了証授与後、予備教育履修生を代表して4名が日本語レベル別にスピーチを行いました。それぞれがこれまでの感謝、学部生としての新生活を迎えるにあたっての決意をしっかりと日本語で表明していました。高校生の間はコロナ禍で長らくオンライン授業を受けていたため、対面で授業を受けることができる喜びを語っていた学生もいました。

その後、既に学部課程に進学している先輩Kyoto iUP生たちが自作のビデオメッセージと、予備教育履修生一人ひとりに宛てたウェルカムレターで祝福し、長谷部 プログラムマネージャーからは今後に向けて激励の言葉がありました。予備教育で日本語授業を担当した教員もオンラインで参加し、予備教育履修生の晴れ舞台を祝いました。



(上)修了証授与  
(下)日本語でのスピーチ



予備教育課程修了生

## 3. 2022年度生が京都大学入学式に参加しました

2023年4月7日に、京都大学入学式が行われました。3月に予備教育課程を修了し、学部入学のための試験に合格した25名も、新1回生として入学式に参加しました。

当日は残念ながら雨模様でしたが、これから始まる学部生活への期待を胸に、笑顔で写真撮影をするKyoto iUP生の姿が見られました。新しい環境に飛び込み、日本人学生と切磋琢磨しながら、伸び伸びと成長していく姿を楽しみにしています。



入学式会場にて

## 4. 履修相談会を実施しました

2023年3月24日(学部新1回生対象)と3月31日(新2回生以上対象)に、2023年度前期の授業履修に向けて、メンター教員による履修相談会を実施しました。

相談会では、職員から教務関係の重要な連絡事項を伝達した後、Kyoto iUP生がそれぞれのメンター教員のところに集まり、各自で準備した時間割の案をもとに履修計画の検討を行いました。

相談会は、半期に一度、学生とメンター教員とが一堂に会し、近況を直接伝える重要な機会でもあります。また、学部学科が違い普段はあまり会わなくなった学生同士も、新学期を目前に久しぶりの再会を喜び合い、期待と抱負を語り合っていました。



初めての時間割作成に頭を悩ませる新1回生も



学生同士で積極的に情報交換

## 5. 学部チューター向けの説明会を実施しました

2023年4月10日に、学部チューター向けの説明会を実施しました。

Kyoto iUPでは、学部1・2回生の留学生それぞれに1名または2名の学部学生をチューターとして配置しています。チューターの役割は、留学生が日本で快適に暮らすことができるようアドバイスを行ったり、専門科目や日本語学習に関する留学生からの相談に応じたりすることです。

チューターは、説明を受ける中で、Kyoto iUP生の多くが高校卒業後間もなく日本語も分からないまま渡日し大学生活を送っていること、いかに親身なサポートが必要であるかということを理解したようでした。その後、チューターとKyoto iUP生が顔合わせと自己紹介を行いました。学生たちはすぐに打ち解けた様子で、初回の活動をどこで行うかについて話し合っていました。

予備教育課程とは異なり、学部課程では日本人学生と共に授業を受けることになります。学習面でつまずくこともあるかもしれませんが、そのようなときはチューターが同じ学生の目線で留学生に寄り添い、きめ細やかなサポートを行っています。



Kyoto iUP生とチューターの顔合わせ

## 6. 2023年度生の選抜審査を終了しました

2023年10月に予備教育履修生として受け入れるKyoto iUP生の選抜審査を終了しました。出願者437名のうち書面審査を通過した者に対し、2月27日～3月10日の2週間にわたって面接審査を実施し、厳正なる選考の結果、今年は24名に合格をオファーしました。入学予定者には、渡日前に少しでも日本語学習を進めてもらえるよう、現地教育機関でプレ日本語予備教育を実施していきます。

出願者数: 437名 (49の国・地域)

面接者数: 64名 (16の国・地域)

合格者数: 24名 (12の国・地域)

合格者の出身高校所在地:

アメリカ、インド、インドネシア、キプロス、シンガポール、タイ、ドイツ、フィリピン、

➡ ベトナム、モンゴル、台湾、中国

## Kyoto iUP卒業生の声

HO, Jui-Hsin 経済学部卒業(台湾)

4年間で単位をそろえ、無事に卒業できたことを嬉しく思います。日本での生活は楽しく、授業や勉強だけでなく、部活やゼミの活動もあり毎日充実していました。楽しい一面ばかりではなく、外国人だからこそ苦労することもありましたが、Kyoto iUP生が安心して生活できるように、どんなときも教職員の皆さんがサポートしてくれました。Kyoto iUP生で良かったといつも思います。支えていただいたことを忘れず、将来は金融業界で、日本と台湾との懸け橋となって活躍したいと考えています。



MUHAMMAD, Hafizh Asysyafa 工学部工業化学科卒業(インドネシア)

Kyoto iUPの留学生として、日本人学生と同じように京都大学で勉強することができました。日本人学生と一緒に授業を受け、弓道部にも入れました。4年間は本当に大変で、特に3回生のときは実験の授業、日本語でのレポート、部活でとても忙しかったのですが、悩んだり友人と一緒に過ごしたりしながら、卒業まで頑張りました。Kyoto iUP生になるのは本当に一世一代のチャンスです。ただ日本で勉強するだけでなく、日本の文化や考え方も学びました。将来は、京都大学で学んだ知識とKyoto iUP生としての経験に基づいて、社会の役に立てるようになりたいと思います。

### Kyoto iUP Newsletter

発行 京都大学国際高等教育院吉田カレッジオフィス

連絡先 吉田カレッジオフィス事務室

Email: [yc-sokatsu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:yc-sokatsu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)

(\*を@に変えてください)



Kyoto iUP\_Kyoto University



Kyoto iUP



<https://www.iup.kyoto-u.ac.jp/>